

令和4年度琉球大学法科大学院

B日程 法学未修者コース記述式試験 問題

令和3年 11 月 14 日(日曜日)
10 時 00 分～10 時 45 分(45 分)

注意事項

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、
間違いのないように受験してください。

- 1 試験開始後、問題文に不具合があれば直ちに申し出てください。
- 2 記述式試験用の解答用紙を用い、答案の何枚目であるかを示してください。
また、答案に用いたすべての解答用紙の所定欄に、受験番号と氏名を記入してください。
- 3 黒色または青色であれば、筆記用具は問いません。ただし、鉛筆書きの場合は文字が薄くならないように十分注意してください。
- 4 試験開始後は、途中退席できません。必要があるときは、監督者に申し出てください。
- 5 試験終了後、解答用紙を回収するので、指示があるまで席を立たないでください。
- 6 その他は、すべて監督者の指示に従ってください。

【問題】 以下の文章を読み、設問に答えなさい。

【文章】

(文章については、著作権の関係で当 Web ページには掲載していません。)

※ 出典：小塚荘一郎『AIの時代と法』(岩波新書・2019年)
出題との関係で、原文に適宜必要な修正を加えた。

【設問】

筆者は、「AI を中心として進んでいるテクノロジーの進化」が、経済活動に対して、どのような変化をもたらすと考えているか、簡潔に述べなさい。それを踏まえて、下線部の変化が社会生活にもたらす功罪について、具体例を挙げて論じなさい。

以上

【出題趣旨】

問1では、文章に述べられた内容を自分の言葉でまとめてもらうことにより、読解力と表現力(文章力)を測定することを目的としている。問2は、論理的思考力、応用力と、現実の社会問題に対する関心の有無を評価する問題である。具体的な法分野に限定されておらず、特定の状況の中で、特定の問題関心をめぐって議論を組み立てればよい。問題文を読んで正確に理解したうえで自分の考え方を論理的に述べるのが求められる。

【採点基準】

1. 設問前半「経済活動にもたらす変化」のまとめ(45点)

- | | | |
|---|-----------------|-----------------|
| ① | 下記の三つのポイントの押さえ方 | 30点(ポイント毎に各10点) |
| ② | まとめ方(論理性、簡潔) | 15点(ポイント毎に各5点) |
| ③ | 裁量点 | -5~+5点 |

《ポイント》

- ・ 経済活動の重点がモノからサービスへと移行していくこと、あるいは、モノの取引からサービスの取引へ。
- ・ 経済取引の対象として、財物の比重が下がり、データ(情報)の重要性が増大していく
- ・ 取引のルールは技術的な仕組みによって決まってしまう部分が大きくなる

2. 設問後半「下線部の変化が社会生活にもたらす功罪」(55点)

- | | | |
|---|-----------------|---------------------|
| ① | 功罪を具体例で示しているか | 功10点, 罪10点(個数に限らない) |
| ② | 自身の論拠の説得性 | 20点 |
| ③ | 全体的な論理性、表現力、独創性 | 15点 |
| ④ | 裁量点 | -5~+5点 |

以上